涙がキラリ☆

刹那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
涙がキラリ☆

【Ｎコード】
Ｎ６２０９Ｏ

【作者名】
刹那

【あらすじ】
君の記憶の片隅に居るわる事を今決めたから・・。

・・突然の恋人からの一言。

「・・ごめん。私、お父さんが転勤するからアメリカに引っ越さないといけないの・・。」

たったそれだけの言葉が、俺をどん底までたたきおとした。

・・七夕の夜、引越し前の最後のデート。
ちょっぴり悲しいカップル達の物語・・。

第一話　七夕の夜に（前書き）

スピッツ原作作品、第二弾です！！＞＜
宜しければ暇つぶしに読んでいってやって下さい！！←

第一話　七夕の夜に

「・・ごめん。私、お父さんが転勤するからアメリカに引っ越さないといけないの・・・。」

「・・・え？」

・・15回目のデートの帰り道。
美しい夕焼けをバックに晃(ひかる)が言った言葉は、一瞬にして俺をどん底に突き落とした。

「・・本当にごめん。私も、直人(なおと)と一緒に居たかったんだけど・・・。」

最後の方はすでに泣き声に変わっていた。
晃(ひかる)は歯を食いしばって、くしゃくしゃの顔をしながら俺に言った。

「ごめんね、直人(なおと)。ごめ・・」

晃の口がふるふると揺れて、その瞳から大粒の涙が溢れ出してきた。
俺はとりあえず晃(ひかる)の頬に手をやって、その涙をふき取った。

「・・・直人・・・」

晃は俺の方を見つめると、またグッと歯を食いしばって、涙を乱暴に拭いた。

「・・ごめん、今日言いたかったのはそれだけ。せっかくのデー

トだったのにごめんね、本当にごめんね・・。」

「・・うん、しょうがねぇよ、晃(ひかる)のせいじゃねぇし。・・でも、引っ越した後だって連絡はちゃんと取ろうな。」

「・・うん。勿論だよ。決まってんじゃん。」

晃はそう言って小指を差し出してきた。
俺も小指をだして、二人でゆびきりをした。

夕焼けに染まった晃の顔は、美しくて、悲しいくらい綺麗で、俺は晃をじっと見つめた。
晃も俺を見つめていた様で、二人して目が合った。
お互いに顔を近づけ、唇を重ね合わせると、晃は顔を下に伏せた。

・・伏せた晃の顎から、小さな水の粒がポロポロ零れていた様に見えたのは、俺の気のせいだろうか・・

……

ーーー太陽はすっかり沈みきって、空一面に星が瞬く夜ーー
俺は自分の部屋のベットに寝っ転がって、天井を睨んでいた。

・・ふとカレンダーに目をやると、赤マッキーで乱暴に丸がしてある所に目がいった。
7月7日・・晃と七夕祭り
そう黒で書いてある。
ケイタイで今日の日にちを確認すると、7月6日だった。

「ーーー明日、七夕か・・」

そうポツリと呟いてから、今度はもう一回ケイタイを開いて、「メール」とかかれている所を軽く押した。
それから「長島（ながしま）　晃（ひかる）」という文字を探して、そこを押す。

「・・なぁ、引越しっていつ？（ー□ー）」

そう文字を打ち込むと、送信ボタンを押した。
それからケイタイをパチンと閉じて、適当な場所に置く・・・

・・なんてつかの間、すぐにケイタイから賑やかな音楽が聞こえてきた。

「7月8日だよ・・（。´＿、。）・・何で？（。o。）」

「・・や、明日七夕じゃん。一緒にいきてぇなと思って。（・w・）」

「・・あ、そか。何だか引越しの事で憂鬱になってたから・・。すっかり忘れてた。f（＋＿＋；）」

「・・そか。・・まぁ、つー事だから明日家に居て。迎えにいく。（・？＜）b≫」

「うん、有難う（＾＾）・・でも平気かなぁ・・。お父さんが許さないカモ・・（；＿；）」

「・・晃の父ちゃんけっこう厳しいもんな。・・じゃ、明日、こっそり迎えにいくよ。（ーwー）」

「本当？（？。？。？）・・でも大丈夫かな・・（＊＿＊；）」

「平気だって。（＾ｗ＾）」

「・・うん、分かった（？ー ー？）それじゃあ家で待ってんね＾＾」

・・そこでやり取りを止めて、今度こそケイタイを適当な場所に置いた。

（・・とはいったものの、どうやって連れ出そうかな・・）

晃に格好いいとこ見せようと、自信満々なこと言っちゃったけど、本当はあんまり自信無い・・

・・と、おっと！弱気になるな俺！！

頑張ればいける！

だから今日はとりあえず寝よう！

・・そう思って電気を消し、目を閉じたが、なかなか眠れない。

晃の引っ越しの事とか、こっそり連れ出す事とか、いろいろな事が頭に浮かんでくる。

（・・あぁ！もう鬱陶しい！さっさと寝よ寝よ！）

今度はタオルケットをおもいっきり被る。

乱暴に目を瞑って心の中を無にしようと努めた。

……

眩しい朝日がカーテン越しに差し込んできて、俺は目を細めた。

（・・全然眠れなかった・・）

・・結局あの後も眠れず、しょうがないのでパソコンをいじっていたが、それも1時間くらいで飽き、次に本を読んでみたがそれもすぐ読み終わり、午前4時になっても眠いのに眠れない状態が続いてしまった。

おかげで目の下にはバッチリくまができ、目は赤く充血してしまった。

ふわぁとあくびをしてベットから起き上がり、洗面所に向かう。
顔を洗ってみたが、あんまり効果は無かった。
ボサボサの髪を適当にブラシでとかし、リビングへのそのそと移動する。

その辺にあったパンを齧り、冷蔵庫から取り出した牛乳を一気飲みした。
意外に冷たくて頭がキーンとなる。
冷めたパンはあまり美味しくなかった。

（・・はぁ・・）

心の中で溜め息を吐きながらもう一回自分の部屋へ。
身体は何と無くダルくて、またベットに飛び込んだ。

・・意味も無くケイタイを開くと、新着メールが三通届いていた。
一通目は・・・迷惑メールか・・何だよ。
二通目・・天気予報・・。・・ふむ、今日は晴れか。通りで朝日が眩しいと思った。

三通目・・・
・・晃からだ・・。

「件名：お父さんの件」

（何だろ・・）

そう思い、早速内容を見てみる。

「5時から5時半までならお父さん犬の散歩行ってるからいないみたい！（＞w＜）b」

「了解！（、w、）＞・・報告あんがと＾＾」

それだけ打って、送信。
時計は7時を指していた。

……

――ギュルルルと腹から音がなる。
もう午後2時か、と思いながらカップラーメンを持ち出して、熱湯を注ぐ。
美味(うま)そうな香りが湯気と共に立ち昇り、俺の鼻腔を擽った。

（・・今日で、晃(ひかる)は引っ越すのか・・・）

そう考えると急に苦しくなった。
・・まだ、県内なら会えるのに・・
そんな事いっても何も変わらない。
だけど考えずにはいられない。

もしも・・晃だけでも残ってくれたら・・

……

――窓の外で小さなこうもりの大群がバサバサと飛んでいる。
空はまだ青空が残った夕焼け。
聴きなれた音楽がゆっくりと外に響き渡っていた。

（・・そろそろ迎えに行くか。）

・・今は５：００ピッタリ。
晃家（ひかるんち）は俺の家から約１０分くらいなのでちょうどいい時間だろう。

ドアを開けて外に出る。
少し六月の湿気が残った空気は今の気分にあっていて俺は大きく息を吸った。

（今日の七夕が、晃が引っ越す前の最後のデート、か・・）

決意を固める様に、拳をギュッと握り、それから自転車でがむしゃらに走った。
・・がむしゃら、といってもすぐに晃家（ひかるんち）に着いてしまったのであまり気持ちはスッキリしなかったのだが。

・・晃の家のドアの前に立って、俺はインターホンまで指を近づけた。

（・・・アメリカに行ったら、今度いつ会えるんだろう・・）

・・ふと、そんな事が頭をよぎる。
そんな暗い事言ってちゃ駄目だと、頭を振って、もう一度ドアと向かい合う。
勢いよくインターホンを押すと、すぐに晃が出てきた。

「直人(なおと)！待ってたよ！」

そう言ってニッコリと笑い、早く行こっ！と俺の手をぐいぐい引っ張る。
俺も晃の元気ぶりに少し驚きながら、まるで引きずられるかの様に晃と一緒に歩き出した。

・・こうして、俺と晃の七夕デートが始まった・・

第一話　七夕の夜に（後書き）

ここまで読んでやってくださり、本当に有難うございました！！！
二次作品のくせに、まだ続きます！！
同情で読んでやって下さると大変嬉しいです！！！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6209o/

涙がキラリ☆

2010年10月31日18時46分発行